

81才)にお尋ねしたところ「当時は白米1升8銭であつたが後で10銭に値上げになった」とのことである。現在白米1升122円位であるから物価は正に当時の1525倍位になっている訳である。ともあれ当時と現代とは物価の相違も去ることながら、機械文明の発達、学問の進歩などに隔正の感がある。すなわちこの「黒島流れ(6月流)」の被害は現代ならば、無線、ラジオ、新聞などの報導で殆んど防止または軽減可能であつたらうと考えられるのである。そしてこの台風は鹿児島島の最大風速12米6であった点から考えて、暴風区域の狭い豆台風であつたものと推定されるので、現代のように機械化された大型カツオ漁船であつたならばこの暴風は乗切つて帰港できたであらうと思われるし、また被害あつたにしても極く僅少であつたらうと推察されるのである。

さてこの台風は枕崎の住民達は「6月流れ」と称しているけれども、枕崎警察署沿革史や坊の津町では「黒島流れ」と称しているので「黒島流れ」と称してよい訳で

ある。

ところで筆者は昭和31年10月号の「天気」の雲鏡欄において「6月流れ」は6月台風であるから、我国気象外史(筆者の仮称)における台風名第1号ではあるまいかと提言したが、今回の文献により「6月流れ」は「黒島流れ」であり、従つて「黒島台風」であると言える訳である。そこでこの「黒島台風」は筆者が提唱する「我国気象外史における台風名第1号」であると言う感じをいよいよ深くせざるを得ないのである(昭33.7.11 枕崎測候所)。

参 考 文 献

- 1) 茶屋道久吉(伊集院), 1955: 明治時代の台風「6月れ」について, 天気, 昭30.5月号
- 2) 故川崎市次郎, 1936: 坊泊水産誌(昭11.3.15) 川辺郡水産会発行
- 3) 枕崎警察署: 枕崎警察署沿革史

以上

学 会 消 息

1. WMO の会議予定 (1960—1963年)

WMO の第10回執行委員会が発表した会議予定の主なものはつぎのとおりである。

1960年	前期	海上気象委員会	第3会期
	前期	気候委員会	第3回会期
	6月—7月	第3回	第3地区会議(リオデジャネイロ)
		図書刊行物委員会	第3回会期
1961年	年初頭	第3回	第1地区会議(カイロ)
	7月—9月	高層気象委員会	第3会期
		測器観測法	//
		農業気象	//
1962年		第3回	第4地区会議
	10月	第3回	第5地区会議(ヌメア)
		第3回	第2地区会議
		航空気象委員会	第3回会期
		シノプチク気象	第3回会期
1963年		第4回	世界気象会議

2. WMO 第3回世界気象会議

明年(1959年)4月, ジュネーブにおいて第3回世界気象会議が開かれる。世界気象会議は4年毎に開かれるWMOの最高会議である。

3. WMO 第2回第2地区会議は延期

WMOの第2回第2地区会議は、パキスタンのカラ

1958年9月

チで9月16日から開かれる予定であつたが、カラチでの開催が不可能なため改めて会場、会議がきまるまで、この会議は延期となつた。

4. 放射性エエロゾル研究連絡会発足

放射性エエロゾル (radioactive fall-out を含む) を共同の研究対象としている有志の研究連絡を主としてこの会が生れた。第1回は8月28日、気象研で川野氏による「自然放射能の観測結果」が報告された。2回目は9月12日に立教大学で道家氏の「国連科学委員会報告の紹介」があつた。

例会は月1回、研究会代表者は気象研究所伊東暈自。

5. 台風予報に IBM 650 型電子計算機を使用

来春から大型計算機 (IBM 704) が予報部に設定されるが、今年はその準備の意味もあつて、中型計算機 (IBM 650) を用いて台風進路の予報を予報部において気象研究所の協力を得て行つている。今年には48時間数値予報を今までに台風17号, 19号, 21号の3つについて行なつた。モデルは、「流線関数を用いた順圧予報」で、48時間予報のためには48回の step (1時間間隔) をふむが、計算速度が早いので、資料の読取りがすんでから4時間で48時間の予報が印刷される。仮りにこのモデルを用いてIBM 704で計算させれば15分程度で結果がでてくる。結果は大体良好。客観的な予想中心位置が48時間まで日本でも求められるようになったことはすばらしい。